



(写真部撮影 ロボコン'96組写真より)

高専
有明高専だより No.90
1996. 12

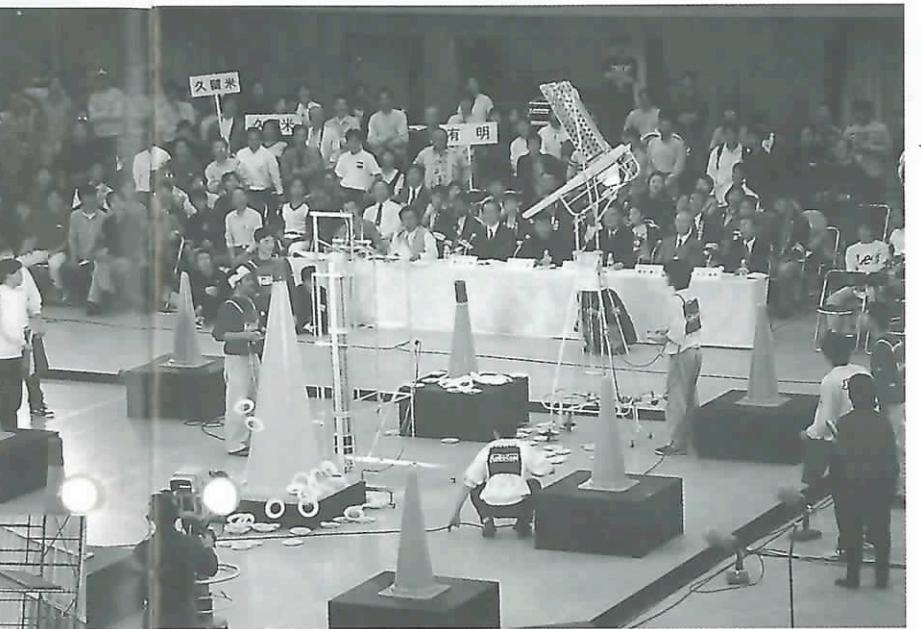
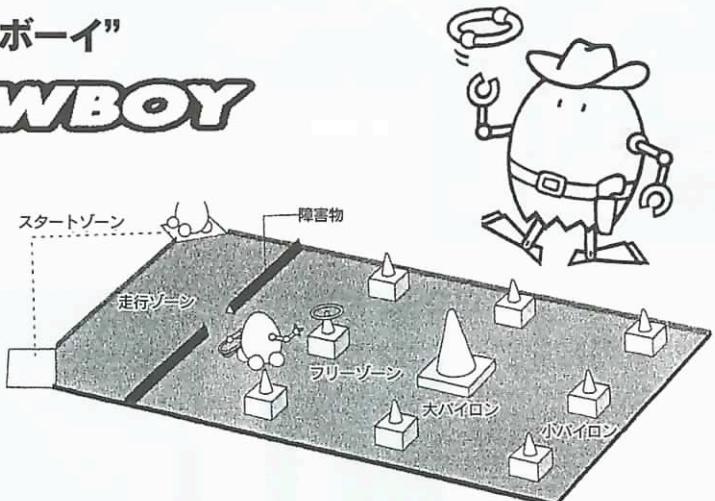
特報 地元大牟田市で開催 ロボットコンテスト九州地区大会

今年のテーマは、“テクノカウボーイ”

TECHNO COWBOY

今回のテーマは、3分間という競技時間内に
出場チーム自作の輪を大小9個のパイロン（大
=1個／小=8個）に投げ入れて、そのパイロンの獲得点数を競い合うゲームです。

パイロンは、2種類あり、高さ2mの大パイロンを獲得すると5点、1m35cmの小パイロンは1個につき1点となり、獲得した総得点で勝敗を競います。そして、中央に配置された大パイロンを含め直線上に3個獲得するとその時点で勝ちとなります。また、1つのパイロンに複数の輪が入った場合は、試合終了時点で上にある輪が得点となります。



選手の感想は？

- 私たちのマシンは、時間と重量の制限に苦しみ、1回戦で予期しないトラブルにより敗退しました。地元で活躍できなかった悔しさをバネとして来年は良い結果を残せるようがんばります。応援ありがとうございました。
(なん蛇こりや大蛇 4M 岡部 陽子)
- 今回初めてロボコンに挑戦したが、結果は最悪。また挑戦したい。安易な気持ちで出場したために負けてしまった。来年もう一度出場して良い結果を出そうと思う。
(KOUJI君 3E 田口 秀一・平石 智嗣)



CONTENTS

特集 '96ロボットコンテスト	2
シリーズ「研究室訪問」	4
シリーズ「人物・いま」	5
九州地区・全国高専体育大会	6
体育祭	8
小文化祭	11
公開講座	12
夏期実習	13
シリーズ「クラブ紹介」	14
文化部活動	15
トピックス、編集後記	16

補助学生の感想は？

- 今までテレビでしか見られなかったロボコンに補助学生として参加でき、高専生の努力やアイデアのすごさに驚き感動しました。いつか、自分も選手としてロボコンに出場したいと思います。
(1E 木村 彰宏)
- 選手を召集する係をやりましたが、「出番です。」と呼びに言っても、どの学生もぎりぎりまで作業をしたりして一生懸命さがわかりとても関心しました。
(3I 長野真理子)

観客の感想は？

- 高専に行くとこんなすばらしい経験が出来るんですね。
(小学生を連れた主婦 35才)
- ロボットに興味があり、毎年テレビで見ていました。今日はどんなロボットが出てくるかわくわくしていました。
(市内中学校 3年生)
- 3本いっぺんに入れるロボットがすごかった。
(6才 男児)



平成8年10月27日(日) 13:00~15:00
於 大牟田市民体育館



フロアに飛ばされた2,000枚もの紙の輪をダッシュで拾い集めてくれた学生、外をかけまわって駐車場整理をしてくれた男子学生、大会前々日の設営から大会終了後の最後のモップかけまで黙々と働いてくれた男子学生、前日遅くまで何度も練習させられたプラカードの女子学生、慣れない手つきでオシボリを作ってくれた女子学生、大会を盛り上げてくれたプラスバンド部員、君達のおかげで本大会は無事終了できました。ありがとう。

シリーズ 研究室訪問

今回は電子情報工学科の中村先生の研究室を訪問した。実験室へ案内されると、まず白の実験着を着せられエアーシャワーを浴びる。なんと実験室はクリーンルームであった。中に入ると電子部品のICを作る高価な装置がずらり。以下先生にお聞きした。

どういう研究をされているのですか？

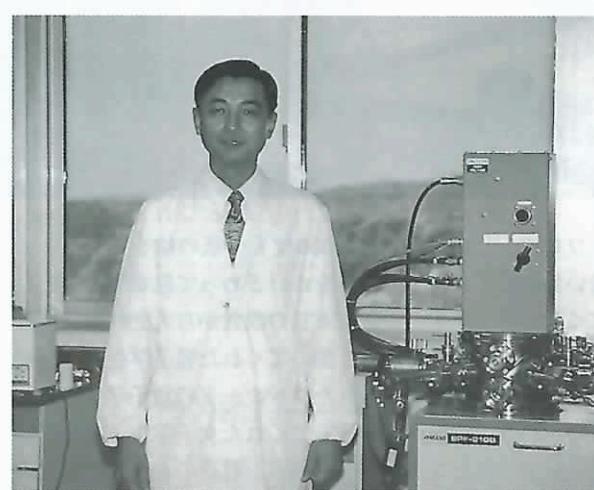
学生の皆さんのが半導体デバイスのプロセス技術に関心を持つてくれるような方法や場をいかに実現するかということがどうですか。

現在、コンピュータなどの電子機器には、たくさんのトランジスタや集積回路（IC）が使用されています。これらの電子部品を半導体デバイスといい、それを作るための一連の処理技術をプロセス技術といいます。たとえば、ICは、板状のシリコン結晶（シリコン・ウェーハ）の表面に非常に多くのトランジスタなどが作り込まれています。ICを作るには、シリコン・ウェーハの表面に薄い酸化膜を形成したり、シリコンの性質を変えるために不純物を入れたり、金属膜をくっつけて配線パターンを形成したりするなど、いろいろな技術が使われます。これらの工業技術は、非常に高い水準にあります。研究室では、これらの技術を原理的に体験してもらったり、半導体デバイスについて理解を深めることができますように力を注いでいます。

いつ頃からどういうきっかけで始められたのですか？

私は、有明高専にやってきて7年目です。ここに来る前は、半導体ではなく超伝導体や超伝導応用の研究をしていました。なぜか、半導体関係の授業を受け持つということで有明高専にやってきたわけですが、しばらくはどんな研究をしようかと考えていました。

電子情報工学科は、このようなクリーンルームがあることからもわかるように、電子回路やその部品の働きまで理



半導体デバイス実験室にて

解できるコンピュータ技術者を育てる目的でできた学科です。やはり教育のためには代表的なことを目指した方がいいだろうと考えて現在に至っています。

どういった点が難しく、問題点ですか？

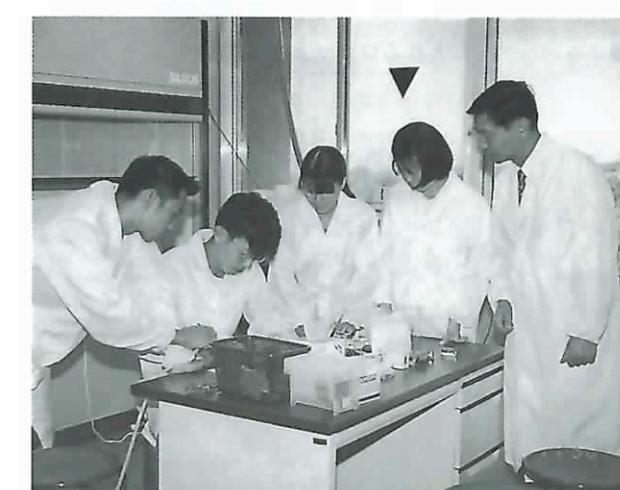
まず、現状ですが、やっと昨年度の卒業研究で、半導体デバイスの基本的要素であるpn接合とMOSダイオードができたところです。課題は、たくさんあります。工業技術では、危険な薬品などをかなり使っていますが、学校では設備的制約から、できるだけ安全な方法を考えなくてはなりません。かといって、工業技術の手法とあまりかけ離れていても教育的意味が薄れます。また、たいていの装置が高価なことです。これらのことを考え合わせながら、工夫していくことが必要です。

卒業研究の内容そして研究生に期待することは？

今年は、昨年度の結果を踏まえて、2つのテーマで行っています。小さな面積（1/100mm²くらい）のpn接合を作製することと、大きさはともかく何とかトランジスタ（MOSFET）を作ってみることです。ICに至るまでの距離は、まだ、だいぶあります。

「ほら、見てごらん！」と何かを示すだけで、それをみて何を感じるかは、学生の皆さん一人一人で違います。私としては何かを感じ、頑張ってくれれば、それでいいのではないかと思っています。

（聞き手：大山 司朗）



卒研学生と…

シリーズ 人物・いま



アメリカの高校に留学して

2C 森山 智代

昨年の8月から1年間、アメリカ東部のオハイオ州の高校に留学していました。オハイオ州は五大湖の一つエリーカー湖のちょうど真下にあります。私が住んでいたフレモント市は、人口1万8千人という小さな町でしたが、落ち着いた、きれいな町でした。

8月末から市立高校に通いました。高専では1年生だった私ですが、留学生ということで、高校3年生になり、今年6月に卒業することができました。初めの数ヶ月は、授業を受けても先生が何を言っているのかわからなかったり、教科書を読んでも知らない単語がたくさんあったりで、大変でした。半年程たって気がつくと、いろんな人と英語でコミュニケーションできている自分がいて、少し驚きました。友だちもたくさんでき、ホストファミリーとの会話もはずむようになります。生活がだんだん楽しいものに変わっていきました。

あまり話したことのない友だちでも、私の名前を覚えていて、廊下などですれ違うときに呼びかけてくれたり、ホストファミリーも私のことを自分の家族のように扱ってくれたり、そうしたことが、日本を離れて生活している私はとてもうれしく思いました。

クリスマスやハロウィン、その他の祝日や行事を通して、あるいはホストファミリーと教会に行くことによって、アメリカの文化や歴史や宗教を直接肌で感じることができました。アメリカの生活に積極的に順応して過ごしたことで、多くのことを学び、多くの良い思い出を作ることができました。日本とアメリカの違い、日本の良さも知りました。

言葉が通じず、色々とくやしい思いをしたこともあります、それらを含めてすべての経験が、いろいろな面で私にはプラスになったと思います。ところで、アメリカは日本と違って面積が大きいせいか、空がとても広く見えたことが今でも強く印象に残っています。



卒業式でクラスメイトと



ヨーロッパでの演奏旅行に参加して

1A 笠間健太郎

ぼくは中学校で、3年間吹奏楽部に入って、トランペットを吹いていました。顧問は溜淵先生で、吹奏楽の世界ではかなり有名な先生でした。厳しい練習の毎日でしたが、3年生のとき、吹奏楽コンクールで最優秀賞に輝き、熊本県代表として九州大会に出ることができました。今回の演奏旅行も溜淵先生の勧めによるものです。吹連北欧派遣団による月2回の練習、8月の最終合宿を経て、8月9日にヨーロッパに向けて出発しました。

最初の演奏会はスウェーデンのマルメがありました。およそ2,000人ほどの人々が集まってくれ、みんなノリが良くて、楽しく演奏することができました。

マルメでは1日市内観光をしましたが、とにかく建物がきれいで、建築学科のぼくとしては、とても良い勉強になりました。ただ、マルメに限らず、ぼくが今回行った国はどこも建物はきれいで。

次の演奏会はデンマークのコペンハーゲンがありました。そこで演奏は、チボリ公園という遊園地の野外ステージで行われましたが、そこも2,000人をこえる人で客席が埋めつくされ、とてもうれしく思いました。

最後の演奏会はオーストリアのウィーンがありました。ウィーンは言わずと知れた音楽の都です。自分がそこで演奏するなんて夢みたいでした。これが最後の演奏だと思うと、もっと演奏したい、もっと音楽を楽しみたいという思いが込みあげてきて、少し淋しくなりましたが、とても満足した気分で最後の演奏を終えることができました。

その後の3日間は観光や買い物をしてのんびり過ごしました。ぼくの英語でも通じたので、英語を勉強してきたかいがあったと思いました。初めての海外旅行はぼくにとってかけがえのないものになったと思います。みなさんもぜひ機会があったらヨーロッパに行ってみてください。損はないと思いますよ。ぼくが保証します。



演奏会の合間に

第33回 九州地区国立工業高等専門学校体育大会

7月19日(金)~21日(日) 担当校／佐世保高専 開催校／北九州高専・久留米高専

成 績

●団体

ハンドボール 優勝

バスケットボール "

●個人の部

剣道 3位 2M 田中(徹)

水泳 (400メドレリレー) 2位 5E 田中(秀)

5E 米田

4E 田中(史)

2E 北島

(100・200平泳ぎ) 優勝・優勝 5E 米田

(400自由形) 3位 4M 山口

(100・200背泳ぎ) 3位・2位 4E 田中(史)

(800自由形) 3位 3M 安松

(200個人メドレー) 3位 3I 梶原

(女子100自由形) 2位 2C 中尾

陸上 (100メートル) 2位 2E 山田

(200〃) 3位 5C 重行

(女子800〃) 2位 2A 前田

円盤投げ 2位 5I 山田(智)

やり投げ 3位 "

テニス (女子ダブルス) 優勝 5M 武内

5I 北島

(女子シングルス) 2位 5M 武内



第26回 西日本地区高等専門学校弓道大会

7月24日(水)~25日(木) 主管校／松江高専

成 績

●女子団体の部

準優勝

●女子個人の部

第5位 4I 安藤



第31回 全国高等専門学校体育大会

8月10日(土)~11日(日) 担当校／熊本電波高専 開催校／佐世保高専・大分高専・八代高専

成 績

●団体

ハンドボール 予選リーグ敗退

バスケットボール "

●個人の部

剣道 1回戦敗退 2M 田中(徹)

水泳 (400メドレリレー) 5位 5E 田中(秀)

5E 米田

4E 田中(史)

2E 北島

(100・200平泳ぎ) 4位・敗退 5E 米田

(400自由形) 敗退 4M 山口

(100・200背泳ぎ) " 4E 田中(史)

(800自由形) " 3M 安松

(200個人メドレー) " 3I 梶原

(女子100自由形) " 2C 中尾

陸上 (100メートル) 3位 2E 山田

(200〃) 敗退 5C 重行

(女子800〃) 2位 2A 前田

円盤投げ 敗退 5I 山田(智)

やり投げ " "

テニス (女子ダブルス) 3位 5M 武内

5I 北島

(女子シングルス) 1回戦敗退 5M 武内

体育祭

平成8年9月15日(日)



J AGUH

今年の体育祭のテーマは「J AGUH」でした。この「J AGUH」というのは、マレー語で“勝利”という意味の言葉で、マレーシアからの留学生アイザック君が考へてくれました。

このテーマのもと、各学科が一致団結し、勝利を目指してほしいという願い通りの立派な体育祭でした。



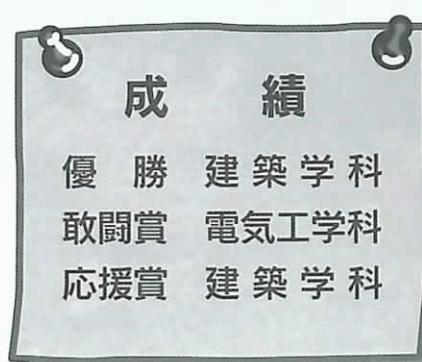
学生会長 5E 石橋 英紀

5月中旬実行委員がわずか20人でスタートした体育祭が9月15日無事に終わった。今年は学生のみでなく来客までもが楽しめる体育祭を目指した。一般観覧用テントを増やしたこともある、かつてない程の来客数であった。個人的にも在学中最高のすばらしい体育祭で、大満足の結果だった。実行委員をはじめ、各学科のリーダー達、教職員の皆様、全学生その他この体育祭に携わった全ての人々に感謝している。

実行委員長 5M 吉田 康男

9月15日、全学生がアイデア、力、技をぶつけ合った体育祭。この1日に注ぎ込んだ学生の力は永遠の思い出として皆さん的心に残つたことと思います。当日は、多少のトラブルはありましたが、皆さんの理解があつて無事体育祭を終えることができました。学生会役員、主事の先生方を始め、皆さんのお力添えに改めて感謝いたします。





小文化祭

平成8年10月31日(木)



文化講演

演題 「国際化時代に生きる」

講師：ブライアン・バークガフニ先生（長崎総合科学大学教授）

カナダ出身のブライアン先生は、敬虔なカトリック教徒として少年期を過ごされた後、自分自身を知り、真理を見たいとの内からの欲求に動かされて1972年に来日され、京都妙心寺で「禪」の修行を積みました。現在は街の併まいに魅せられた長崎に居を構え多方面でご活躍されています。

異文化との出会いによるユニークな体験を紹介しながら、ユーモアあふれる話術で学生の心を捉え、美しい日本語で国際化時代に生きる3つの条件について話されました。その条件とは(1)それぞれの国の文化は比較できるものではなく、優劣はつけられない。互いにその違いを認め、心を開いて相手を尊重すること。(2)肉体にとって、心臓や肝臓が内臓ならば山や川はいわば外臓である。環境問題について遠く慮り、自然と人間の調和を図ること。(3)外国文化の下手な真似や二番煎じは止め、足元にある自分の文化に誇りを持ち、それを深化させ磨くこと、と説かれました。

現在の日本はそれらを見失っているのではないかと危惧されます。若い学生諸君が、先生の貴重なお話を永く心に留めて、真に国際人として活躍することを期待します。
(先生の著書は図書館にあります。ぜひ、一読を)

(宮川 英明)



シリーズ クラブ紹介

テニス部と水泳部の紹介です。テニス部主将 古賀瑞規君(4A)と水泳部主将 田中史朗君(4E)に新学生会会長の井上君(4E)がインタビューしました。



(テニス部)



4E 井上 和哉



(水泳部)

井上：まず最初に、現在の部員数と日頃の活動内容について教えて下さい。

田中：水泳部はマネージャーを含めて約30名います。冬場はランニングや筋力トレーニングなどの体力作りをやって、4月になると泳ぎ始めます。冬場は、月に1度温水プールを利用しています。

古賀：うちのクラブも男女・マネージャー合わせて30人程度です。日頃はストロークやサーブなどの基本的な練習を行い、冬場にはランニングや筋力トレーニングをやっています。

井上：自分たちのクラブ活動の魅力は、どんなところですか。

田中：水泳部の魅力といったら夏にいつでもプールに入れることですね。それに、うちは個性派ぞろいだから楽しいですよ。

古賀：テニス部の方はあまり学年の上下関係がないですね。みんな楽しくやっています。

井上：そうですか。それでは、二人がキャプテンという立場である上で、嬉しい時やつらいと感じる時はどんな時ですか。

田中：まだ、キャプテンになって日が浅いので、よくわかりませんが、嬉しいと思う時は部活にみんなが出席してくれる時ですね。つらい時は、立場上あまり言いたくないことをみんなに言わなければならぬことです。

古賀：そうですね、そんなところがキャプテンとしてつらいところですね。僕は、キャプテンになる前はほとんど人に頼り切っているところが多かったのですが、いざキャプテンになってみると、その役目の大変さを身をもって実感させられました。毎日の練習を考えたり、みんなを指導したりと、慣れないことはかなり大変でした。自分はキャプテンには向いていないんじゃないかなって悩むこともあります。

した。嬉しいと思うときは、自分が組んだ練習をみんながしっかりとやってくれるときでしょうか。でも、その反面、自分の考えをわかってもらえない時はつらいです。

井上：今までで、一番印象に残っている試合は何ですか。

田中：一番印象に残っている大会は、僕が2年生の時、高体連の大会に参加できるようになった時です。高専と普通高校とでは、高専の方がレベル的には低いのでとても緊張して泳いだのを憶えています。その大会で県大会までいたのがとても嬉しかったです。

古賀：印象深い試合はいくつかあります、やはり3年生のとき初めて高専大会に出場したことでしょうか。試合は惜しくも負けてしましましたが、いい経験になったと思います。

井上：これから、どんな雰囲気のクラブにしていきたいですか。

田中：やはり楽しく練習ができるクラブにしていきたいですね。それでいて、やる時にはバッチャリやる、といった感じにやっていきたいです。

古賀：1・2年生の部員が全体の大半を占めているので彼らが部活の中心になって、お互いに競い合いながら、部内を盛り上げていけるようにしたいと思ってます。

井上：最後に、来年の目標をどうぞ。

田中：来年の目標はとりあえず九州大会総合優勝ですね。それよりも多くの部員が全国大会に出場できるようにがんばりたいと思います。

古賀：今年は団体戦で佐世保高専に敗れ、全国大会に行きましたので、来年こそは佐世保高専に勝って団体戦・個人戦ともに全国大会へ出場したいと思います。

井上：ありがとうございました。

●文化部の活動●

英語弁論大会

31 長野真理子

今年の7月24日、熊本電波高専において、「九州地区国立高専英語弁論大会」が行われた。九州内にある高専の学生がそれぞれ英語で原稿を書き発表する、というものであるが、本校からは私と2Cの川上雅智君の二人が代表として参加することになった。



私はESSの部員ではなかったが、スピーチ部門の代表として出場することになった。自分のダイエットの体験を発表した。原稿が出来上がるが遅くなり、自信がもてない状態で宿舎に入り、緊張の糸をピンピン張りつめる形になっていた。しかし、宿泊したホテルで、他の学校の学生達と仲良くなり、すっかり緊張はほぐれてしまった。

大会当日、緊張こそしなかったが、練習不足がたたり、結局賞をとることはできなかった。けれど、この大会に出ることで、他の学校との交流も増え、また英語で話すということに恥ずかしさを感じることはなくなったので良い経験になったと思う。

プログラミング・コンテスト

去る11月9・10日の両日、北九州国際会議場において全国高等専門学校第7回プログラミング・コンテスト（プロコン97本選）が開催されました。我が有明高専からは、6月に予選（書類・ビデオ審査）を経て、課題部門と競技部門にエントリしました。

課題部門からは「人の気持ちがわかるコンピュータ」をテーマに3M森野君と3I林君による、ネットワーク対応対戦型タイピングトレーナ「Battle Type」のアイデアが評価され、佳作として表彰を受けました。一方、競技部門は目隠しをした人がコンピュータの支援を受けながら迷路を抜ける速さを競うもので、全国から39チームの参加がありました。本校は5I平尾さん・小田君・林田君のチームが出場

しましたが、結果は制限時間内に迷路を抜けることができず、1回戦を突破できませんでした。今回の競技はかなり厳しく39チーム中10チームしか1回戦を突破できない状況でした。

来年のプログラミングコンテストは長岡で開催されます。あなたもチャレンジしてみませんか？（松野）



第29回四高専吹奏楽部合同演奏会

～Final Concert～

四高専吹奏楽部合同演奏会は昭和43年に佐世保・久留米・有明の三高専吹奏楽部が合同演奏会を開催したことからその歴史は始まった。その後、佐世保の替わりに大分高専が参加し、昭和50年には新たに北九州高専が加わって、本年まで、四高専合同で29年間演奏会を開催してきた。文化部にとって他高専の同じクラブ同士が交流する機会を持つということは、技術的にも人間的にもその幅を広げるという意味で刺激的な効果が大きい。合同演奏会の事前練習や合同合宿において語り合い、ぶつかり合い、共感しあった強烈な感動が29年の永きにわたって演奏会を継続させた駆動力になっている。しかし、ここ数年来、部員の増加、学寮の改修にともなう合宿場所の消失などの諸条件の悪化で限られた予算内での演奏会実施が事実上不可能な状態になってきた。それでも、部員の情熱で何とか今まで開催してきたが、もはや限界に達した感があり、各高専の部員及び顧問教官で協議した結果、今年度で四高専合同演奏会の歴史を閉じることになった。寂しいことではあるが、今後、実現可能な新しい形で他高専の仲間達とふれあう場が持てるような行事が企画されることを期待している。

そういうことで、大分での本年の演奏会がファイナルコンサートとなった。部員達はそれを意識し、最後にふさわしい演奏会にしようと全員心を一つにして頑張った。アンコールの最後の曲は「星条旗よ永遠なれ」。ブラスバンドの原点とも言える有名なマーチである。演奏が始まると同時に熱いものが感じられた。「これがみんなで演奏できる最後の曲だ」という気持ちが伝わるような力強いフィナーレだった。

(吉田)



手作りペットボトル・ロケット大会

本校は、11月9日（土）～10日（日）に、まなびピア福岡'96の一企画として、諫訪公園特設会場にて手作りペットボトルロケット大会を開催した。2日間で小・中学生約80名の参加者があり、午前中本校スタッフの指導を受けながら友達同士、家族みんなでワイワイと楽しくロケットを製作した。午後からは、いよいよ競技会である。参加者全員自作のロケットを手に、飛行会場に集合。子供達の目が輝いている。最初の順番の子がロケットに水を入れ、本校特製の発射台にセット。圧縮空気を空気入れで注入し準備完了。皆の視線が集中する。合図で恐る恐るスタートピンを抜くと、『ブッシュ』と水が勢いよく噴き出し、本物のロケットのように迫力ある飛行で予想以上に遠くへ飛んでいった。観客からどよめきが上がり本人の顔がほころぶ。飛行距離が計測され、次の子の番になる。両日通しての最高飛行距離は85mであった。表彰式の後、入賞者は賞品の特製キーホルダーに自分の記録を記入してもらい、皆大事そうに自分の愛機を抱えて帰っていった。

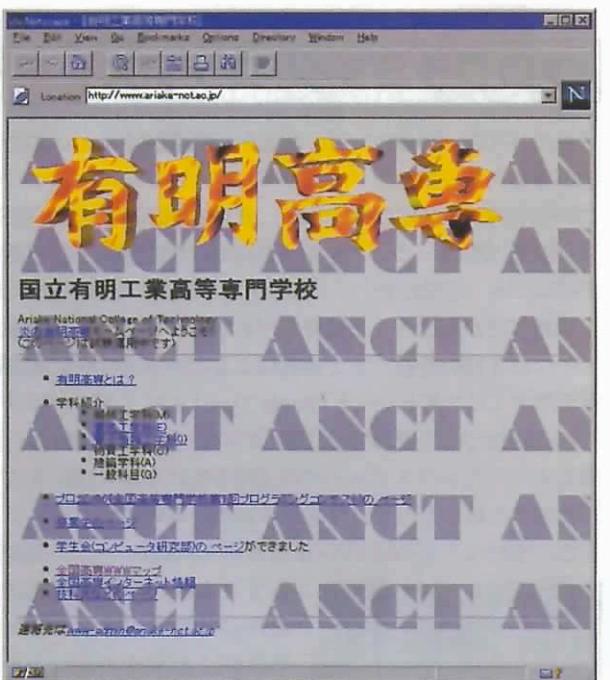
なお、本企画の実施にあたっては大牟田市および本校機械工学科、実習工場係、5M学生諸君の多大な協力があったことを付記しておく。



ホームページ公開

昨年夏の試験運用開始からいまだに試験運用のままでですが、ただいま有明高専のホームページを公開中です。現在は、情報処理センターのスタッフを中心とする教官有志で運営しており、学校情報や電気工学科と電子情報工学科の簡単な暫定ホームページを含め、コンピュータ研究部や卒業生のページなどを公開しています。また、校外の高専関係のちょっとしたリンクなども用意しています。URLは <http://www.ariake-nct.ac.jp/> です。

今のところ、まだまだ内容も不十分ですが、今後は学校内だけの情報にとどまらず、この有明地区の地域情報等も提供するもっと充実したものにしたいと思っています。また、世界最大のコンピュータネットワークであるインターネットを通じて、世界に向けて有明高専をアピールできるようなホームページを目指します。



編・集・後・記

今回は9月の体育祭と10月末に本校担当で大牟田市で行われたNHKアイデア対決ロボットコンテストの二大イベントを中心に編集し、それに取り組んでいる学生のいきいきとした活動、表情を追うことにした。ロボコンでは残念ながらよい成績を挙げることはできなかったが、表紙には学生の真剣な取り組みを撮影した写真部の作品を掲載させてもらった。

有明高専だより 第90号
平成8年12月10日
編集 ■有明高専広報委員会
発行 ■有明工業高等専門学校
〒836 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8611 (庶務係)



有明高専だより

第89号
1996.6



卒業式後の記念撮影



校庭の枝垂れ桜

CONTENTS

- 入学式式辞 2
- 新入生オリエンテーション 3
- 新任教職員 Q&A 4
- 卒業式送辞・答辞 7
- 物質工学科生物棟竣工 8
- 掲示板 9
- 退官教官 Q&A 10
- 卒業生の進路・表彰 12
- 学生表彰 13
- 海外見聞録 14
- 寮生行事・春季球技大会 15
- 玉野工務店・香春駅舎設計・編集後記 16

第34回
入学式式辞

有明工業高等専門学校長

高松 康生



日頃の勉学が実を結んで試験に合格し、栄えある入学を許可された213名の新入生諸君、そして12名の編入学生の皆さん、入学おめでとう。ご来賓各位並びに保護者の皆様のご列席のもとに、有明工業高等専門学校第34回入学式を執り行い、君たち、工業技術の道を志す若人を新たに迎えることは、本校教職員並びに在学生一同の心から喜びとするところであり、諸君を心から歓迎致します。また、諸君の入学は、君達を支え、導いて来られたご家族にとっても大きな喜びであろうと存じ、保護者の皆様に衷心よりお祝いを申し上げます。

さて、恐らく新入生の皆さんには、これから始まる学生生活への希望と期待で胸をふくらませ、勉学への決意を新たにして居られることと思います。ご存じのように、高専は5年制の高等教育機関であって、卒業時には成人の年齢に達することから、1年生から5年生まで全員を、「生徒」ではなく「学生」と呼んでいます。このことは、高専に入学したら、今までのよう先生の指示や指導に従って他動的に行動するだけでなく、自分で物事を判断し、自分の行動を制御してゆく力を養って、自主性と自律性を備えた人間に早く成長して欲しいという、私たちの願いの現われでもあります。

「初心忘るべからず」という格言は、入学当初の生き生きと意欲に満ちた気持ちを、在学中断せず保ち続けることの難しさを逆説的に述べているとも言えますが、どうか新入生諸君が、5年間今の気持ちを忘れずに、毎日の生活が安易に流れることのないよう、自らを律して勉学に精励し、充実した学生生活を送られることを願っています。

高専は、同じ高等教育機関である大学と比較して、「職業に必要な能力を育成する」ことを目的としている点が大きな特徴で、工業高専である本校は、将来職業人として工業技術を通して社会の発展に寄与出来る人材を育成するために設けられた学校です。諸君も承知していると思いますが、工業技術とは、自然科学发展した学術的成果を、社会の役に立つ具体的な「もの」に作り上げ、人々の用に共するための「わざ」であり、社会の発展の原動力として、これまで永年にわたって人類の繁栄に貢献して来ました。

近年、人間と人工物の氾濫によって、地球上での物質循環のバランスが崩れつつあることから、工業技術に対する社会の視点が、経済面から環境面へと移りつつありますが、工業技術が人類の繁栄にとって欠くことの出来ない「わざ」であることに変わりはなく、工業技術者に課された責務は、むしろ今までよりも重くなりつつあると言うべきでしょう。これらのことを見

え合わせれば、工業技術者とは、「もの」を創造する喜びを味わいつつ、人類社会の発展に寄与するという素晴らしい職業と言えるでしょう。皆さんは、工業技術者を志すことに誇りと夢を持って5年間研さんを重ね、次に述べる立派な技術者となるための要件をしっかりと身に付けて下さい。

その第1は、先人達の足跡である専攻分野の工学基礎知識を深く学び取ることです。そしてその際に、単に鵜呑みで憶えるのではなく、「なぜそうなのか?」、「どうしてそうなるのか?」をいつも自分で考えて、納得出来なければ理解出来るまで、とことん追求していく姿勢が大事です。

第2は、実践的な技術力の養成です。学んだことを単に知識として持っているだけでは技術者として役に立ちません。それらを実際の技術的問題に対してどう適用するのか、その使い方を訓練するのが演習や実験実習、そして卒業研究です。これらは実践的技術者の育成を目指す高専教育の根幹をなす大切な科目ですから、しっかりと気合いを入れてやって下さい。

第3は、人間としての内面の充実です。現代の工業化社会では、工業技術はさまざまな形で人々の生活に影響を与えています。それゆえに、工業技術者には、どのような技術や製品が人類にとって本当に必要なかを見極める、洞察力と判断力が求められます。これらの能力を養い、人間的成長を図るために、社会のさまざまな出来事に常に関心を持ち、自分なりに考える習慣を身に付けることによって、広い視野を養うよう心掛けるとともに、文学や歴史など多様な分野に興味の対象を広げて、豊かな教養を身に付けるよう心掛けることが必要です。

第4に、技術者が持つべき大切な要件の1つは、仕事に耐えうる肉体です。将来、皆さんが技術者として持っている力を發揮しようとするとき、それを支えるに十分な身体を作るために、在学中は大いに心身を鍛錬し、体位の向上と体力の増進に励んで下さい。

大牟田、荒尾両市の中心街から離れ、緑の小岱山、三池山と、陽光に輝く有明海を遠く望む、閑静で自然に恵まれたこの萩尾台は、皆さんが勉学に励み、人格の陶冶に努め、体力を育むには絶好の場所です。この恵まれた環境の中で、新入生諸君が先生への信頼、友達との友情を深めながら、卒業までの一日一日を有意義に過ごし、積極的な学生生活を送られることを願つて、式辞といたします。

新入生オリエンテーション



●ソフトボール

1M 尾道 健一

オリエンテーション2日目の自由時間「一緒にソフトボールしよう。」と僕は声をかけました。そしたら八代高専からも「やろうぜ。」の声が聞こえました。こちらは稲員団長さんを監督とする有明高専で八代高専と勝負をしました。八代高専の人達は面白い人が多くてとても楽しかったです。1試合目は6対1で勝ちましたが、2試合目は10対2で負けてしまいました。しかし勝って喜ぶというよりも、八代高専の人達と仲良くなったのが嬉しかったです。このような他団体との交流、先輩の厳しい中にも優しさを感じた校歌の練習、おいしくて待ち遠しかった食事、そしてきつかったけど楽しかったオリエンテーリングなど、今思えば、ほんとうに意義のある3日間でした。

●阿蘇研修

1E 山内絵美子

高専に入学して初めての研修で、阿蘇に行きました。草花がたくさん咲いていて、とてもきれいでのどかなところでした。自然が好きな私は、この雄大さに感動しました。阿蘇は、私にとって理想の場所になりました。

そして、うれしかったのが新しい友達ができたこと、以前からの友達とっとと仲良くなれたことです。日常の生活では見られない1コマも、この研修で見ることができました。そしてもう1つ、団体生活の大変さを学びました。団体での協力の大切さもわかりました。

最後に、この研修で学んだこと、感じたことなどを今後、役に立てていこうと思います。

●オリエンテーションを終えて

1I 前川 典子

阿蘇での研修は短い間でしたが、たくさんのこと学ぶことができました。

まずは、集団行動の大変さやむずかしさを、そして、その大切さや喜び、楽しみなどの感動を覚えました。みんなで一緒に行動するためには、自分のことだけ考えるのではなく、いつもみんなのことを考え、協力していかなければなりません。そのことが、2日目のオリエンテーリングを通して体験できました。

また、この阿蘇で過ごす間に自然のすばらしさをみることもできました。印象的だった景色は、夕食のときに見た日没です。心残りは、阿蘇の星を見られなかったことです。

●新入生オリエンテーション

平成8年5月9日~11日 国立阿蘇青年の家

機会があれば見に来たいと思います。

この3日間は、自分のためになる日々が送れたと思います。これからの高専生活では、3日間で学んだたくさんのことを活かしていきたいと思います。

●3日間を振り返って

1C 新谷奈津子

今回の新入生オリエンテーションで、私はいろんなことを学びました。

初めの頃は修学旅行のような感じでガヤガヤしていたけど、夜の校歌練習の時から、みんなこれは研修だということを自覚したようでした。校歌練習で声がかれた人もたくさんいたし、みんな一生懸命でした。

2日目のオリエンテーリングでは、班だけでなく学年全員で協力したので、道に迷ったりもしたけれど、たくさんの人と交流がもてて、とても楽しい時間が過ごせました。

この3日間を振り返ってみると、みんなで一緒にご飯を食べたりお風呂に入ったりして、友達がたくさん増えました。いろいろな事を通して、みんなで一つになることもできました。この新入生オリエンテーションは、私だけでなくみんなにとっても良い出来事だったと思います。

●阿蘇研修を終えて

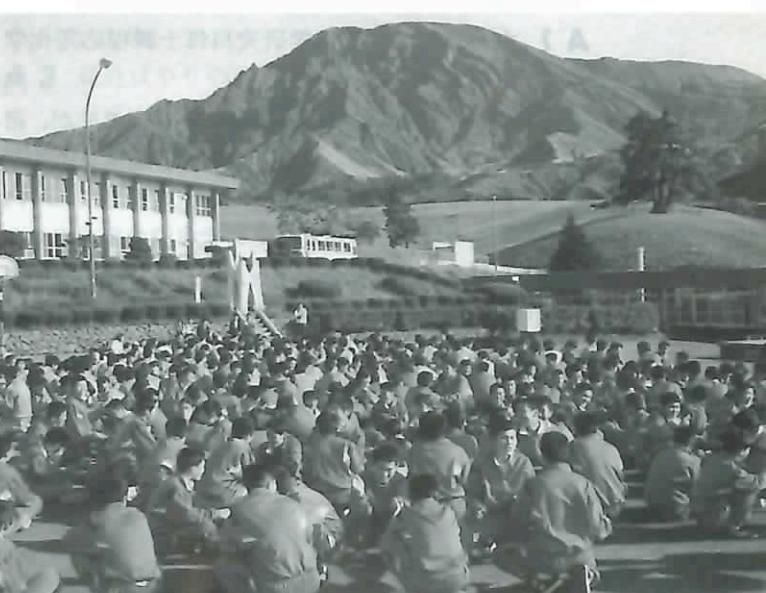
1A 福澤 祥子

私は寮生で、毎日集団生活だから阿蘇へ行く前日までは、「今さら阿蘇まで行っても……」と思い、いやいや準備をしていた。

それが、いざ当日になってみると、妙にハイテンションで行きのバスの中から楽しかった。1日目の校歌の練習に2日目のオリエンテーリングとたくさん思い出ができるけれど、一番心に残ったのはホームルームの時間だ。

一人ずつ、「高専に入学して」と「一年間の抱負」という題で発表した。部活のこと、勉強のこと、自分の夢のこと、みんないつまでも何も考えていないようでは実はちゃんとした考え方を持っているようだ。なんだか自分もがんばろうという気持ちになった。

これからもクラスの中が、それぞれの将来や学校生活に対する意欲にあふれていれば、誰かががつらい気持ちのときでも支え合っていける気がする。



新任教職員 Q&A

●新任教職員の方々を次のQ1~4で紹介します。

- Q1 本校へ来る前は
- Q2 本校あるいは本校学生の印象について
- Q3 趣味は
- Q4 抱負を一言



名前・福田浩人
所属・電気工学科

A1 長岡技術科学大学大学院修士課程電気・電子システム工学専攻で「教授一学習過程のシステム化に関する基礎的研究」というテーマで研究していました。

A2 私が本校に在学していた頃は男子学生の割合が高く、黒一色というイメージでした。現在は教職員を含め女性の割合が増えたためか、全体的に明るくなつたような印象を受けました。

A3 星空をぼーっと眺めること、学校に泊まること、電車で旅行すること、バイクで徘徊すること、うまい日本酒を飲むこと、F1中継を見ること、車の助手席に乗せてもらうこと、(以下省略)などです。

A4 C科の笹木先生に間違えられないよう、ダイエット……ではなく、学生から「先生」と呼ばれるのにふさわしい能力と人格を一日も早く備えることができるよう、努力していきたいと思います。



名前・田中康徳
所属・物質工学科

A1 九州大学大学院工学研究科修士課程応用化学専攻で学んでいました。

A2 学校の周辺に商店が少ないので困りますが、自然が多くて非常にうれしいです。学生は明るく活気があると思います。

A3 ドライブ、最近は初めての大牟田の街を車でうろうろしています。それから、夏には毎年友達と山にキャンプを行っています。

A4 ついこの前まで学生で教えてもらっていたのが、逆に教える立場になり戸惑う毎日ですが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。



名前・大森洋子
所属・建築学科

A1 大森設計室で設計活動をしながら、九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科で町づくりと景観管理計画について研究していました。

A2 私が在学していた時に比べ、女子学生が増加してるので驚きました。

A3 映画鑑賞。趣味とは言えないかもしれません、建物を見て回ること。大学時代は主に日本の民家を見に行っていましたし、卒業後は地中海建築に魅せられています。

A4 高専では、学生としての経験はありますが、教官としては初めてなので、緊張しています。早く授業や研究のペースをつかんで、学生の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。



名前・森山恵香
所属・建築学科

A1 四年前に設計事務所を設立し、主に住宅の設計をしていました。

A2 十年ぶりに訪れた母校は、相変わらず自然環境に恵まれており、嬉しく思いました。ただ、当時に比べて女子学生の数がかなり増え、制服もおしゃれになったなあ…と時代の流れを感じています。

A3 読書(特に推理小説)・音楽鑑賞・映画鑑賞

A4 新任教官として慣れないことばかりで、なかなか要領がつかめず、試行錯誤の連続です。でも、まわりの教官技官の方々に支えられ、楽しく過ごす今日この頃です。これから、教官としての役割を担い、自己研修を積んでいく中で、いつも心にゆとりを持ち続けたいと思っています。



名前・酒井 健
所属・一般科

A1 熊本大学大学院理学研究科に所属し、物理学を専攻していました。主として高圧下における希土類化合物の磁性の研究をしていました。

A2 あいさつをきちんとすると明るい学生が多く、とても良い印象を受けました。

A3 高校まで仙台にいたので、冬はスキーによく行きます。最近、車を購入したのでドライブにもよく行きます。

A4 今まででは、人から教えられることはあっても、人に教える機会はほとんどありませんでした。これから、1日1日を大切にし、学生の気持ちを理解できる教師になりたいと思います。よろしくお願いします。



名前・安田公臣
所属・会計課 会計課長

A1 神話の国出雲に所在する島根医科大学で会計の仕事を担当していました。また、余暇には地元体育協会卓球部等の役員として活動し、8年3月には中国広東省と卓球交流を行いました。

A2 ウグイス、メジロなどの鳥の鳴声や姿に接し、自然と一体になれる環境に感動しています。学生の表情が生き生きとし、笑顔で会話をしている光景をよく見かけます。将来は安心です。

A3 有明高専へ来る前は、卓球、映画鑑賞その他。これからはやりたいことが多くてどうなりますか。

A4 井の中の蛙が外へ出て、世間の広さにとまどっている現状ですが、一日も早く有明高専に慣れ親しみ、有明の月になりたいと心ひそかに思っています。



名前・松田恵治
所属・事務部長

A1 昭和39年に採用、以後、大分医科大、鹿児島高専、福教大、宮大を経て平成6年広大へ、広大では23年の歳月を費した統合移転の完了という節目の時期に2年間、大学改革とも重なり大変忙がしい毎日でしたが、想い出多い貴重な経験をさせていただきました。

A2 自然豊かな環境下で教育研究に真剣に取り組んでいるように見受けられます。また、皆さん非常に親切で親しみやすさを感じています。

A3 体を動かすことが何よりも好きで、生涯を通じていろんなスポーツを楽しみたいと思っています。現在はゴルフを主にやっています。

A4 二度目の高専勤務です。大学も含めた過去の経験を少しでも活かして、本校の発展のために全力投球でお手伝いさせていただきたいと決意しています。



名前・調 卓二
所属・会計課 出納係長

A1 採用は、長崎大学でしたが、昭和60年より九州大学に変わり、本年4月に有明高専にやってまいりました。

A2 今まで病院や事務局に勤務していたため、学生に接することが少なかったのですが、学生が身近に感じられ、これが学校なのだなと実感しています。

A3 最近はやりのインターネットを少々。ただし、パソコンは自宅(福岡)にあるため、時々しかできません。

A4 まだまだ知らないことが多いので、皆さんに教わりながらやっていきたいと思います。それから、楽しい職場をめざして、皆さんと仲良く楽しくやっていけたらと思っています。



名前●増永 誠
所属●会計課 総務係

- A 1** 九州大学歯学部総務課第一用度掛に勤務していました。
- A 2** 自然環境に恵まれ、のどかで静かなやすらぎを感じる学校。工業系にしては女子学生が多いので驚きました。学生は上級生より下級生の方がしっかりしているように思います。
- A 3** スポーツ観戦（ドームも博多の森も少し遠くなつたのが残念）及びオリコンのチェックと映画鑑賞。
- A 4** とまどいの毎日ですが、本校発展のためにできることからコツコツやって行きますので、よろしくお願ひいたします。



名前●高松陽太郎
所属●庶務課 人事係

- A 1** 九州大学医学部で人事の仕事をしておりました。
- A 2** 勉強、仕事、スポーツに専念できる環境。学生の印象は、若くて、眩しくて、自分の年を感じました。
- A 3** ゴルフ、野球。ちょっと前からバドミントンを始めました。
- A 4** 職員の中では若い方に入りますので、若々しくやつていただきたいです。個人的には、いい思い出をたくさん残せるように心掛けたいと思います。



名前●徳永祐太
所属●会計課 施設係

- A 1** 九州大学施設部に勤務していました。
- A 2** 自然環境に恵まれた学校で明るく活発な学生

が多いと感じました。

- A 3** 現在いろいろなものに挑戦して趣味をつくっています。
- A 4** 早く学校に慣れ少しでも役に立てるよう精一杯がんばりますのでよろしくお願ひします。



名前●羽根由恵
所属●電子情報工学科科技官

- A 1** 福岡から大牟田へとこの4月にやって来ました。大学を卒業後、半年ほど民間の企業で働いていました。
- A 2** すごい所に建っているなということ、女子学生が多いこと。また、環境のいい明るく活気のある学校という印象を受けました。
- A 3** 読書、映画鑑賞など。特にSFやアクションが好きです。
- A 4** 専攻が違い、その上一番苦手な分野でわからないうことで一杯ですが、一生懸命がんばります。今後ともよろしくお願ひします。



名前●大木泰仁
所属●物質工学科科技官

- A 1** 宮崎大学工学部物質工学科応用物理学課程において乱流風洞の制御実験をしてました。
- A 2** 自分の高校時代と比べ、自由で開放的な印象を受けてます。女子学生が意外に多く、戸惑うことが多いです。
- A 3** 幅広い知識を持つようにしております。趣味は多岐に渡っています。一般的なものからここで説明するにはとても紙面が足りないような変わった趣味まであるので、ここでは書ききれませんが、アブない趣味ではないので悪しからず。
- A 4** 未知の分野で、まだ理解していないことがたくさんあるので、精一杯努力して早いうちに学生から信頼される存在になりたいと思ってます。が、その前に、よく学生に間違われる所以、早く顔を覚えてもらえるようにしたいです。

平成7年度
卒業式送辞・答辭

送 辞 在校生代表 学生会会长 石橋 英紀

スキーの季節もそろそろ終り、暖かい陽射しの中でのテニスやドライブが似合う季節となりました。社会人として、また大学生として門出の春を迎えた卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

振り返れば、私たちが中学校から本校に入学し、高専という特殊な環境に、また九州のみならず全国各地から入学してきた学友たちに、戸惑い、不安でいっぱいだった私たちに対し、いつも一番身近な存在でご指導していただいた先輩方には、感謝の気持ちでいっぱいです。入学したてで初対面の私たちに「野球部入らん?」、「バスケ部がいいよ!」、「中学でバレーしましたならやっぱバレー部よ。」としきりに部活動の勧誘に来られたのも先輩方でした。先輩方に初めてお会いした春から、4年の月日がたちました。

私たちは常に高専生活のお手本として先輩方の姿を見てきました。そのもともと記憶に新しいものが、昨年11月に行われた高専祭です。「高専進化論」のテーマのもと、学校全体の、また各学科のリーダーとして毎晩遅くまで計画を練り、私たち下級生を指導されている姿を見て先輩方の偉大さ、最上級生の責務というものを知りました。先輩方のご努力により有明高専32年の歴史を塗り替える、まさに文字どおり進化した、すべての人々に感動を与えた高専祭でした。このように先輩方が、言葉でそして行動で示していただいたおかげで後に続く私たちも、道に迷うことなく、つらいことも乗り越えてくることができました。これらの、先輩方から学んだことを受け継ぎ次へと伝えていくことが私たちの責務です。来年度は体育祭、先輩方の母校の体育祭として恥ずかしくないものを作り上げてみせます。

いよいよ皆様は今日を境に、社会人として、または大学編入生としてのスタート地点に立たれます。どちらの道もその行く手には、高専時代とは比べものにならないほどの大きな壁が待ち受けていることでしょう。しかし、この「エンジニア卵養成所」である有明高専で学ばれたことをもとに、私たちに見せていただいた、幾多の困難にも立ち向かう不屈の精神で頑張って下さい。私たち在校生もこの萩尾の地より応援しています。これから先、私たちの耳に先輩方のご活躍の知らせが届くのを楽しみにお待ちしています。また、時には私たち後輩を叱咤、激励に御来校下さい。先輩方のご健闘をお祈りするとともに、在校生を代表して「さようなら」ではなく、この言葉を贈ります。「ガッツだぜ!!」

平成8年3月18日

答 辞 卒業生代表 東川 康児

ここ萩尾のキャンパスにも春の息吹を感じさせてくれます本日、私たち176名は晴れて卒業式を迎えることができました。

校長先生の告辞、文部大臣のご祝辞や後輩の温かいお祝いと激励のお言葉をいただき、別れの寂しさを味わうとともに、こみ上げる喜びを感じております。

思い起こせばこの5年間、体育祭、高専祭、研修旅行、卒業研究等、その一つ一つの行事や出来事に、こぼれんばかりの想い出が詰まっており、今はただ懐かしく思い出されてなりません。

自由闊達な雰囲気の中、日々、充実した学生生活を送ることができた、ここ萩尾台での5年間は、素晴らしい恩師との出会い、生涯の友を得た、青春を飾るにふさわしい一生の財産となったことと確信しております。

私たちは、様々な体験を通して多くのことを学ぶことができました。とりわけ、自ら考え、実践することの尊さ、結果もさることながら、努力の過程がいかに大切であるかということ、そして、物事を成し遂げるには、周りの人の支えと協力がなくてはできないという貴重な体験を積むことができました。

これら有明高専で教わった様々なことは、社会に出たとき必ず、役立つことと確信しております。

今、私たちは期待と不安の交錯する中、巣立とうとしていますが、人には、それぞれの生き方があり、その時々によって、自らの意志で決断しなければならない時があることを、ひしひしと実感しております同時に、例え、道は険しくとも、自ら選んだ道である以上、理想を失わず、これまで私たちを導き育んで下さった諸先生方や社会の期待に応えるべく、乗り越えていく覚悟です。

来るべき21世紀は、私たちの時代です。本校で鍛えた体と逞しい精神力で自己研さん励み、それぞれの目標に向かって、また新たな出発をいたします。どうか温かく見守っていて下さい。

最後に、私たちの歩みを助け、ご指導いただいた校長先生を始め教職員の皆様や、私たちを慕い、支えてくれた在校生の皆さんに感謝の意を述べ、答辞といたします。

平成8年3月18日



物質工学科

生物棟竣工

によせて



テープカット

化学は分子や分子の集合体である物質の振る舞いを分子もしくは原子レベルで捉える学問ですが、21世紀の化学は生物学および物理学をも取り込み、大きく飛躍すると期待されています。現在においても、化学の対象分野は従来の枠組みを大幅に超え、バイオからエレクトロニクス、ニューマテリアルを含みつつあります。このような枠組みの変化に対応して、平成6年、工業化学科を物質工学科に改組しました。1年から3年までは化学を基本とした基礎科目を学び、4年生からは物質コース、生物コースに分かれて専門科目を学びます。物質コースでは画期的な新物質の創出と物性、機能材料を中心とした物質科学の展開が期待できることと思います。一方、生物コースでは化学と生物とのヒブリド化した新分野の展開、例えば生物のもつ様々な機能を生活に役立てる学問の展開が期待できます。

このような新分野に対応できる実践技術者養成を目指して、生物棟が4月25日に竣工しました。生物棟は新しく必要となる生物工学関係の教育研究、設備室として建設されたものです。建物は、物質工学（工業化学）科棟西側、修己館の北側に隣接して建設されました。鉄骨構造2階建て、延べ床面積547m²、全体として気品ある素晴らしい建物で、教育研究にふさわしい雰囲気を漂わせています。

1階の正面玄関を入りますと、明るい白を基調とした雰囲気の中、左側に生物反応工学実験室があり、ここでは生物コースの学生実験のほか選択科目の授業も行います。玄関の右側には水室教官室と機器分析実験室があります。機器分析実験室には、時間分解蛍光分光光度計や可視・紫外分光光度計等が設置してあります。

階段を2階へ上がりますと、この建物の特徴である三角形の天窓から明るい光が入射してきます。正面に三浦教官室と笛木教官室、右手に微生物工学実験室と生物工学実験室があります。微生物工学実験室ではバクテリアや細胞を用いたマクロな領域の実験や研究を行い、生物工学実験室では生物を分子レベルで捉えたミクロな領域の実験や研究を行います。

左手には生物資料室があり、その奥に特殊空調がほどこされた培養室があります。培養室は4つの部屋からできています。植菌室、低温室、恒温室、実験準備室に分かれています。植菌室はクリーンルームになっており、ゴミが入らないように設計しています。中では細菌やバクテリアなどの維持・継代、バイオアッセイ等を行います。低温室は温度を4°Cにコントロールした部屋ですが、主にタンパク質や酵素の精製等を行います。恒温室は、温度を一定にして細胞やバクテリア等の増殖を行う部屋です。準備室には、最大遠心力602000Gをもつ超遠心機や-80°Cの超低温フリーザーが設置されています。

最後に、21世紀にふさわしい物質工学科の生物棟が竣工したことは、私たちにとってこのうえない喜びであり、工業化学科の物質工学科への改組にご協力賜った数多くの方々に厚く感謝いたします。今後、物質工学科の機能が十分発揮されるよう中味も素晴らしいものとし、教育研究を通して技術の発展に貢献するため万全の努力をはらうつもりでいます。

(水室昭三記)



植菌室での無菌操作

掲示板

図書館に念願の
ブックディテクションシステムを導入！

今年4月、図書館閲覧室にブックディテクションシステムが導入されました。学習閲覧室3万冊、研究閲覧室2万冊の合計5万冊の書籍にタトルテープが貼り付けられ、書籍を無断で持ち出すと、ゲートの磁気装置が感知して防止するシステムです。これまでと違った閲覧室へはカバン等をロッカーに預けずにそのまま入室できるようになりました。そのため、従来の入口の閉鎖的なロッカー、間仕切がとり払われ、館内全体が見通せる開放的な図書館に変貌しました。

さらに、カウンター前の雑誌閲覧コーナーも戸棚や書架の配置を工夫して広々とした空間になりました。今後とも、より使いやすく快適な図書館をめざして改善していきたいと考えています。皆さんの積極的要望や提言をお願いします。

公開講座のお知らせ

講座名	期日	対象
楽しい電子工作教室	平成8年7月23～24日 (9:00～16:00)	中学生
中学生のためのコンピューター講座	平成8年9月14・28日 (9:00～15:00)	中学生
アマチュアのための 楽しいビデオ講座	平成8年7月24～26日 (13:30～16:30)	一般成人

研修旅行（第4学年）

期間：平成8年5月14日(火)～17日(金)

●機械工学科 (学生47名、川崎・明石引率)

都立東京航空高専（東京都荒川区）

日本航空羽田整備工場（東京都大田区）

日立精機（千葉県我孫子市）

東京都庁（東京都新宿区）

●電気工学科 (学生40名、永守・福田引率)

東芝京浜事業所（神奈川県横浜市）

NHK放送センター（東京都渋谷区）

日本航空羽田整備工場（東京都大田区）

●電子情報工学科 (学生39名、瀬々・森引率)

東芝柳町工場・東芝科学館（神奈川県川崎市）

NHK放送センター（東京都渋谷区）

日立製作所汎用コンピューター事業部

（神奈川県秦野市）

日本航空羽田整備工場（東京都大田区）

●工業化学科 (学生36名、三浦・渡辺引率)

ダイキン淀川製作所（大阪府摂津市）

ユニチカ宇治工場（京都府宇治市）

東レリサーチセンター（滋賀県大津市）

●建築学科 (学生38名、小野・松岡引率)

神戸異人館めぐり（兵庫県神戸市）

神社・仏閣めぐり（奈良県奈良市）

ロボットJリーグ
有明ステージ‘96開催

大牟田・荒尾市内の小中学生を対象として昨年から始まったロボットコンテストは、おむね好評で、本年度もほぼ同じ内容で行うことになりました。今年は実施時期を早めて、夏休み中に開催することにし、製作も10日間集中的に行い、効率よく製作できるように配慮した。昨年は、初めてということもあり、本番では、立ち往生するロボットもいくつかあつたが、今年は私たちを楽しませてくれるロボットも出てくるのではないかだろうか。

期日：平成8年8月4日(日)

場所：荒尾総合文化センター

製作期間：平成8年7月22日(月)～8月2日(金)

製作場所：有明高専岱明寮食堂

卒業生の進路・表彰

機械工学科

アートヘブンナイン

セツツ

チバコ

テクモ

ニシヨリ

バスター

旭精機工業

安川エンジニアリング

喜多村製作所

九州ノゲデン

九州三田技術コンサルタント

三菱重工業 広島製作所

三菱重工業 高砂製作所

三菱重工業 長崎造船所

西研グラフィックス

西日本プラント工業

青陽社

大橋エアシステム

第一精工

竹下産業

日本オーチス・エレベータ

日鐵プラント設計

不動メタリックス

富士ダイス

愛媛大学

熊本大学

豊橋技術科学大学

関西電力

九州旅客鉄道

佐賀エレクトロニクス

三井ハイテック

山加電業

西日本プラント工業

第一精工

東レ

藤和開発

日本電気フィールドサービス

日本無線

第一精工

日立電子サービス

福岡リコー

福岡東芝エレクトロニクス

平井精密工業

有明システム

英建産業

共和建設

九州不動産鑑定所

穴吹工務店

鴻池組

佐藤組

三井ホームエンジニアリング横浜

九州工業大学

熊本大学

長崎大学

福井大学

日本オーチス・エレベータ

日本たばこ産業

長崎大学

豊橋技術科学大学

長岡技術科学大学

日本テレコム

日本ビーソー

日本電気フィールドサービス

日本無線

第一精工

日立電子サービス

福岡リコー

福岡東芝エレクトロニクス

テック

ニチゾウ有明設計

英建産業

共和建設

九州不動産鑑定所

穴吹工務店

鴻池組

佐藤組

三井ホームエンジニアリング横浜

三栄工業

山本設備工業

住友林業

小竹組

松島建設

新井組

新都市企画一級建築士事務所

森本組

清水建設

西松建設

太陽建設工業

大森設計室

大成建設

東京ガス

東洋建設

日本下水道事業団

日本道路公團

平建築設計事務所

北九州市役所

福岡市役所

九州大学

熊本大学

長崎大学

工業化学科

P & G ファー・イースト・インク

サンウエーブ工業

タイキ薬品工業

山口油屋 福太郎

九州セラミックス

九州ノゲデン

光榮精工

三浦工業

三共

出光興産

新日鐵化学

大日精化工業

大日本インキ化学工業

第一製鋼

中村製紙所

東レ

東亜石油

東陶機器

日光化成

健和看護学院

国立西崎玉中央病院付属看護学校

大栄公務員受験学院

東洋印刷製本

九州工業大学

南関高等学校

熊本大学

佐賀大学

電子情報工学科

TDCソフトウェアエンジニアリング

グリーンランド観光

エヌシーミー

ケン・コントロールズ

デジタルツーカー九州

旭精機

新電電ネットワーク

りぶ、ぐりーん

横河シカデン

岩下エンジニアリング

阪和電子工業

松尾産業

神戸芸術工科大学

西銀コンピュータサービス

西田鉄工

綜合警備保障

大和コンサル

東京エレクトロンFE

東洋印刷製本

九州工業大学

南関高等学校

日研総業

5年間皆勤者

学科	氏名	学科	氏名
M	武藤 彰男	C	矢野 ひろみ
E	中島 孝明	A	児玉 憲助
I	松尾 由美		

5年間精勤者

学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名		
M	磯濱了介	E	中島 孝明	I	陣内 優子	C	松本 彰朗		矢野 ひろみ
	西村 公志		萩原 健史		田 中 智		森山 孝幸	矢羽田 健二	
	古川 茂雄		橋本 竜輔		西山 美由紀		吉富 貴司	タンチャンキー	
	山田 雅之				原 祐美子		大槻 浩之		
E	小田 恭之		ファウザン		松尾 由美		進藤 悟司	児玉 憲助	
	尾張 智				宇野 良博		坂本 道亮	坂本 道亮	
	斎田 任日州				小宮 南之		前川 信吾	萩原 德康	

学生表彰

1年間皆勤者 (1~4年生/171名)

年科	氏名	年科	氏名	年科	氏名	年科	氏名	年科	氏名	年科	氏名
I M	諫山 秀一	I I	瀧口 豊児	I A	齊藤 伸太郎	2 E	前原 啓博	2 A	山下 紗喜子	4 E	江頭 義也
	梅崎 誠治		永江 健修		坂上 美穂		松下 剛		山中 和哉		江藤 大輔
	江崎 達祐		西山 修一		品川 健介		渡邊 貞治		岡部 陽子		彦美 葵
	岡田 光弘		前田 誠		高柳 力也		相川 喜世		鹿児島 弘規		大輔
	木山 敦		田島 真一朗		松本 珠美江		石橋 和子		深川 純一郎		江藤 昭則
	莊昌志		宮崎 浩美		實測 秀昭		井村 征智		堀 隆之		

JAPANESE TECHNOLOGY

イギリス見聞録



ストックポートのトヨタディーラー

私はマン彻スター大学での研究のため10ヶ月英國に滞在したのだが、その生活の中で私が見聞した現地の人々の日本の工業製品の印象についてここに記することにする。

家探しのためにホテルから private hire に乗り込むと、運転手が話しかけてきた。私が日本人だとわかると、「この車は日本製だよ。なかなか故障しないよ。日本のテクノロジーだね」と言った。外交辞令だと思った。車から降りると、それはトヨタのカローラだった。私は、現地で初めて “Japanese Technology” という言葉に接した。

夏の日の夕方、風呂場の水漏れ修理のため、訪ねてきた配管工は私が日本人だとわかると、笑顔を浮かべてポケットからパナソニックの携帯電話を取り出し、「これは日本製だ」と言って、その機能を得意げに説明し始めた。おかげに、その場で会社に電話を入れて使い方を実演してみせた。別れ際に「お前はこういうものを作る会社の社員か」と訊ねられ、「いや、マン彻スター大学に英語の勉強にきたんだ」と答えると、その配管工は黙ってしまった。その男の沈黙した表情に失望の感情がみられた。彼は、自分が出会った日本人の私が、あの携帯電話のような優れた工業製品を作る会社のエンジニアであって欲しかったのだろう。

私の友人であり、先生でもあったクリスは暇さえあればオートバイの雑誌をむさぼり読む大のオートバイファンであった。お茶を飲みながら、私が大学生の頃ハーレー・ダヴィッドソンに憧れた話をし、今でも経済的余裕があればそれを買いたいと言うと、彼はそのことが信じられないという表情をして、「ヒトシ、日本にはホンダがあるじゃないか。」「でもハーレーの音と振動はたまらないほど快感だよ。」「うん、それはそ

うなんだが」とクリスは一応同意したもの、次々に自分の愛車のホンダの魅力を主張した。私は以前、本田宗一郎の本を読んだことがあった。著者の自社製品への過剰とも思える自信に鼻持ちならないものを感じたものだが、クリスのホンダへの入れ上げに「やっぱりホンダはいいのか」という気になった。

ポーランド出身のアーサーに写真を撮ってもらった。彼は親切な男だが、いつも日本の朝礼や、上司に対する返事の仕方「ハイ！ハイ！」の様子を揶揄していた。その日、私のニコンのオートフォーカスのカメラのファインダーを覗くと、すぐさま “It's my dream, very wonderful” とそのカメラを賞賛したが、“but It's too delicate” とカメラの悪口を言った。ポーランド製の自動車がイギリスでほとんど相手にされないことを知っていた私は「そうだろう、戦車みたいな自家用車しか作れない君たちにはその精密機器は too delicate だろうな」と言い返してやった。

クリスマス休暇のある晩、隣人のアンディの家に招待され、「いい物を見せてあげる」と言って、応接間の壁一面に揃えたテレビやコンポ類を説明した。「びっくりしただろう？」と彼は言った。私が質問の意味がわからずにはいると、「僕の家には日本製品が一つもないだろう。気を悪くしたかい？」と言う。日本の電化製品は英国人の間でも人気があるので、各家庭に日本製品の一つや二つはあるのが普通だが、彼は日本製を全く持っていない、それはすべてフィリップス社の製品だった。「気を悪くはしないが、君はなぜ日本製を買わないんだ？」と私は单刀直入に質問した。「これらの製品にはフィリップス社の開発エンジニアだった父の情熱が生き続けているからね。父は7年前に死んだけど、彼は日本の電化製品をずいぶん研究し、賞賛したよ。父も僕も日本製品の優秀性は認めるけど、それでも僕は日本製は買わないよ」と彼は説明した。「素晴らしいことだよ。そういう心情は世の東西を問わず普遍だと思うよ。君と君のお父さんに再度乾杯！」と返事をして、二人でワインを傾けた。



岱明寮行事

平成8年度当初に行われた岱明寮における各種行事についてご報告します。

4月6日、7日 寮生指導者研修：寮務委員と寮生役員32名で大牟田ハイツにおいて実施され、指導者としての心構えや、役員からの要望など、熱心な討議が行われました。

4月9日 入寮オリエンテーション：從来、体育館で行われてきた「入寮式」が、今年度は「入寮オリエンテーション」という形態で岱明寮食堂で行われ、74名の新入寮生に対し寮生活についての説明がありました。なお保護者の方には食堂業者の中村学園事業部のご好意により昼食を取っていただきました。

4月11日 新入寮生歓迎夕食会：校長先生はじめ多くの教職員に出席していただき、盛大に行われました。

4月20日（開校記念日）球技大会：新入寮生の歓迎と寮生間の親睦を深めるために、出身地区別にチームを編成し、男子はバーボール、卓球、女子はドッジボールの競技を行いました。体育館と武道場に若者の元気な声が響きわたり、楽しい一日となりました。総合優勝は福岡Bチームでした。



歓迎夕食会

春季球技大会

体育局長 5M 吉田康男

5月31日に行われた春季球技大会では、快晴の空の下、学生・教職員共に1回戦から白熱した試合が繰り広げられました。以下にその主な結果を報告します。

	優勝	準優勝	MVP
ソフトボール	4M	事務	4M 大津 聖
バーボール	3A	5C	3A 福島将師
卓球	1E	2E	1E 古賀裕規
テニス	4M	4A	4M 神代浩年
女子バレー	2A	5I	2A 濱地直子

最優秀クラス 4M 優秀クラス 1E

大会ではテニス、ソフトボールの2種目で優勝を勝

ち取った4Mが最優秀クラスとなりました。女子バレーでは2Aが、男子バーボールでは3Aがそれぞれ優勝するなど、5年生ばかりではなく下級生の活躍も目立ち、今までの大会とはひと味違った盛り上がりを見せました。今回のクラスの団結が各学科の団結に繋がり、今年の目玉である体育祭は立派なものとなるだろう。そう感じさせるようなすばらしい球技大会でした。



高専大会日程

■第33回九州地区高専体育大会

期日 平成8年7月19日（金）～21日（日）

担当校 佐世保高専

陸上競技	県立総合運動公園陸上競技場（諫早市）
ソフトテニス	佐世保市総合グラウンド庭球場
バドミントン	佐世保市体育文化館
水泳	佐世保市総合グラウンドプール
ハンドボール	陸上自衛隊佐世保教育隊体育館

担当校 北九州高専

硬式野球 北九州市立本城球場、九州国際大学野球場

バスケットボール 北九州市小倉北体育館

卓球 北九州市小倉南体育館

剣道 北九州高専第1体育館

担当校 久留米高専

サッカー 久留米高専グラウンド、久留米大学病院グラウンド

柔道 八女市総合体育館

バレーボール 久留米市総合スポーツセンター県立体育館

テニス 久留米市総合スポーツセンター県立テニスコート、久留米高専テニスコート

期日 平成8年11月23日（土）～28日（木）

担当校 北九州高専

ラグビー・フットボール 北九州市立本城陸上競技場

■第26回西日本地区弓道大会

期日 平成8年7月24日（水）～25日（木）

主管校 松江高専

TOPICS



玉野工務店 T.M.F.出場
奨励賞獲得



楽屋にて、中央はシンガポール代表、

5 A 野寄忍さん・有田努君・大坪寛君・木本孝一郎君・高巣真哉君・濱口光一郎君の6名で構成される玉野工務店は、5月5日中野サンプラザホールで開催されたティーンズミュージックフェスティバル'96全国大会（T.M.F.）に福岡地区代表として出場。各地の予選を勝ち抜いた19チームとシンガポール1チームの計20チーム中、唯一のア・カペラで、“THE ROSE”を歌って奨励賞を獲得。玉野工務店は3年生の時に結成、昨年はセミファイナル大会で特別賞を受賞。そして、今年は全国大会へ出場。

メンバーに感想を聞いてみました。

野寄さん：私たちの歌を多くの人に聴いてもらえ、しかも大きな舞台で歌えて感動しました。

有田君：建築とは異なる分野で貴重な思い出ができる良かった。

大坪君：全国からの出場者やスタッフと友達になれて良かった。

木本君：ステージでは足が震えました。新聞やラジオで紹介されてうれしい。

高巣君：19歳最後の良い思い出になり、でかいことをやっ

たなど実感しています。
濱口君：全国大会で最高の歌が歌えたので涙が出そうになるくらいうれしく、また、有明高専の名を多くの人に知ってもらえてうれしく思いました。



JR 香春駅舎
新駅舎の設計



谷口さん

香春駅新駅舎の設計を入社1年半で手掛けたJR九州勤務の谷口尚子さん（A22、平成6年3月卒業）にお話を伺いました。

新駅舎の設計について：新駅舎は火事で消失した旧駅舎と香春岳をイメージしました。設計から積算まで約3ヶ月かけて、1人で作業を進めてきました。各部門との調整が大変でしたが、私の考え方通りに仕上がり、楽しく仕事ができました。苦労したことと言えば、A2版に14枚程の図面を書くのに戸惑い、上司や先輩方にいろいろ教えていただきながら書き上げました。

仕事について：この4月から博多設備区に異動しました。現在は事務所や社宅、寮などの修繕・模様替工事の設計から現場監督までの仕事をしています。以前は門司の施設部設備課計画テーブルという部門で各工事に必要な予算を組んだり、設計の仕事をしていました。

後輩に一言：私は駅の設計がしたいと言い続けていたので、香春駅の駅舎の設計をさせていただけたと思っています。駅をつくるという夢が一つかなったわけで、夢・希望を持って仕事に取組むこと、そして、自分がやりたいことをきちんと主張することが大事だと思います。



香春駅舎外観

編・集・後・記

広報委員会で掲載記事を決定後、「玉野工務店」、卒業生の谷口さんの活躍が伝わってきた。おかげで最終ページ（カラー）を飾るトピックスとなって、本号を引き締めることとなった。本年も多数の新任教職員が来られ、4人の教官と6人の職員の方々が去られました。退官された方々のご健勝とご多幸を祈り、新任の方々のご活躍を期待します。

有明高専だより 第89号

平成8年6月15日

編集 ■ 有明高専広報委員会

発行 ■ 有明工業高等専門学校

〒836 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1011㈹